

令和5年8月13日

株式会社スカパー・エンターテイメント
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

FOX チャンネル 番組審議会議事録

- ・日時 令和5年6月27日(火)17:00～
- ・開催場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 27階会議室
- ・参加者 審議委員総数 9名
出席委員数 7名
書面参加委員数 2名

(出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 執行役員/編集長)
- 副委員長 藤田 興彦 (学校法人和田実学園 評議員)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 第三事業本部局長)
- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 吉田 千佳 (YouTuber)

(書面参加委員名)

- 委員 パトリック・ハーラン (タレント・大学講師)
- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 取締役)

(番組供給事業者側 参加者：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

- 伊藤 由起 (編成 ディレクター)
- 高橋 朋美 (編成 マネージャー)
- 石原 亜依 (編成 スペシャリスト)
- 杉崎 晴那 (編成 コーディネーター)
- 待鳥 雅之 (編成 アシスタント・マネージャー)

- ・議題 (1) FOX チャンネルの番組編成について
(2) 審議番『ジュニア ベイクオフ』について

・議事内容

(以下、*：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答)

(1) FOX チャンネルの番組編成について

→新番組『NCIS : LA〜極秘潜入捜査班』シーズン 14 (ファイナルシーズン) が、今夜 22 時スタート。お馴染みのクリス・オドネルと、ヒップ・ホップ・アーティスト、LL・クール・J の二人が主演の大人気アクションドラマの最終シーズンを日本最速で初オンエア。

→サタデー・ナイト・ムービーでは、『グローリー』(1989 年制作/アメリカ) を放送。アカデミー賞 3 部門受賞した作品で、南北戦争で実在したアメリカ史上初の黒人部隊「第 54 連隊」の活躍と仲間達との強い絆を、史実に基づいて映画化した感動作。

(2) 審議番組『ジュニア ベイクオフ』について

・放送概要：

2022 年 11 月 5 日(土)に日本初放送。

約 30 分×13 本

・番組内容：

オーブンを使ってお菓子やパンを作る“ベイキング”の腕を競い合う人気のコンテスト番組『ブリティッシュ ベイクオフ』のスピノフ、『ジュニア ベイクオフ』を日本初で放送。2011 年から本国イギリスで放送開始したこの番組は、現地でも大人気の番組。シーズン 1 は、ベイクオフでお馴染みのポール・ハリウッドとメアリー・ベリーが審査員を担当。9 歳から 12 歳のベイカーたちは、大人顔負けの腕前を披露してくれる。

→作品のポイントは、子供ならではのハプニングとかトラブルに思わず顔がほころび、観ていると、思わず応援したくなるところ。

→限られた時間内で、様々なテーマでのスキルやセンスを問われる中、子供たちの成長が見られて、大人顔負けのシーンもあり、勇気ももらえる番組になっている。

→また、おうちでも気軽にお菓子作りができるという気づきを得ることができ、家族で一緒に観て楽しめる。

*初めて見た。オリジナル版の『ブリティッシュ ベイクオフ』を E テレでやっていたので視聴したが、基本的にはこのジュニアもオリジナル版と同じスタイル。

*コンペティション番組は、見ていて辛いものがある。どうしても、自信満々な子より、失敗を乗り越えた子を応援してしまう。

*「なぜこの子が優勝したのか」というところに、平等性があるのか、少し疑問に感じた。

- * 結局のところ、純粋な料理コンテストではないのかも…と感じた。
- * 味覚は千差万別な部分ではあるので、答えは存在しないのかも知れない。勝負論を謳ってはいるけれど、実は明確な勝負ではないのかな、と思ったりもする。
- * 日本の番組には必ずある各参加者の「バックボーン」の説明がないことに驚いた。日本の番組に慣れてしまっているので、参加者がどういう子なのか、気になった。イギリスではこれが当たり前なのか、と驚かされた。バックボーンの説明があると感情移入できると思う。
- * 個人的には感情をのせるところがなかったと感じたが、それが良いのかもしれないし、判断は難しい。
- * コンテンツクリエイターの観点で、どのように番組制作をしていくべきか、考えさせられる番組だった。視聴者にどこまでの情報をどのように与えるのが良いか、自分の作品づくりにも照らして観賞した。
- * ターゲットが 20~60 代の女性ということ踏まえると、この番組のようにサラっとした作りで良かったのかもしれない。
- * 審査員が子供たちに語りかける場面はとても良かった。まず褒めてから、少しだけ問題点を指摘する。子供たちは、まずは「自分が 1 番」と思うことで、更に先を目指して審査員の指摘を受け入れられるのではないかと強く感じた。
- * 個人的には、情報の少なさは特に気にならなかった。だが、日本では過程が大事で欧米は結果重視という文化のちがいがあと思うので、欧米の番組を日本に持ってきたときに、物足りなく感じるというのも理解はできる。
- * 子供たちが見ても楽しいコンテンツと感じたので、ターゲット層が 20~60 代の女性というのは驚いた。
- * 子供は 5 歳くらいで「負ける」という感覚を味わい始める。どうやったらその負けを受け入れて、次の成長につなげられるのかという親目線で視聴した。
- * 海外のコンペティション番組では、大人は自信満々なことが多いが、今回の子供たちはとても冷静で、不安な表情も見られたことに驚いた。そんな中、審査員の二人がとても上手に褒めていて、このように褒めたら自信満々な大人に育つのか、と勉強になった。必ずしも生まれつきの自信ではなく、環境で自信が育つのだなと感じた。
- * 絶望はさせないという環境づくりを、意識的に行っているようだ。
- * 子供の自信についての良い示唆だと思った。大人版のベイクオフと同じスタイルでやっ
ていながら、単なる子供版にしていないところや、彼らを一人前として扱っているところが、子供たちの自信につながっているのではないかと感じた。
- * オリジナル版のベイクオフは毎回 1 人ずつ落選するが、そこでは全員で称えあう様子が映し出されている。子供たちもその大人版を見ているため、勝ち負けはもちろんあるが、頑張ったことや称えることが名誉なことだという認識が根付いていると感じた。

- *自分の感性がものすごく島国的で、自分の文化の中に浸りすぎているので、そこから見ると、この番組をどう見ていいか分からなかった。
- *イギリス人にとってオープンというのは武士の塊や日本刀のようなもの、と聞いたことがある。その文化の厚みの上に、スリリングさがあるのかなと思った。
- *MCや審査員の褒め方、指摘の仕方というのは、ピリピリした感性の中で、子どもの気持ちを傷つけないように配慮が感じられた。個人的には、全てにおいてとても高度で、批評が難しかった。
- *さすが人気番組のスピノフで、「この番組はおもしろい！」と思った。子供たちの真剣な取り組みと、トラブルにも対応している創意工夫に、一人一人を自然と応援してしまう。
- *温かいコメントで励ましている審査員の態度に、とても好感を持った。
- *料理と化学の融合という視点もユニーク。
- *料理での競争という古典的な企画だが、シェフが子供であるという小さなヒネリがあることで、グンと斬新さが増す。
- *このデジタル時代に、子供が料理をするというもっとも原始的な作業の面白さに、目覚めるきっかけになってくれればと思う。
- *本来は大人が見る作品ではあるが、子供も一緒に楽しめる作品。アナログ的な工作や創意工夫の啓蒙が難しくなっている中で、料理コンテンツは有用だと思った。
- *子供と遊んでいるとき、大人から離脱してしまうことが多く、創意工夫の瞬間を見逃しているのではと感じることがある。その点、料理は包丁や火など危険性があり、最後までやり遂げる必要があるため、子どもの創意工夫を逃さない意味合いがあるのではないかと思った。そういった意味で、料理コンテンツの有用性・強みをあらためて感じる。
- *審査員からのコメントで良い点を話した時に、子供たちが喜びというよりは、安堵の表情をするのが、ものすごくリアルでチャーミングだと感じた。

・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和 5 年 6 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：

令和 5 年 8 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上

